

『学校との運命の赤い糸』

合格校 武蔵中 巣鴨中 立教新座中 栄東中

学校との運命の赤い糸、これってあると思いますか？私はあると思います。
小学4年生の段階で、能力、性格、雰囲気、『この子は絶対武蔵中だな。』そう感じさせてくれる生徒でした。

私自身明確な基準があるわけではないですが、学校の方針や雰囲気と、その子の雰囲気とが合致するのです。

志望校については、紆余曲折ありましたが、最後はやはり「武蔵！！」ということになりました。記述が多い志望校で、記述が「かなり」苦手だったのですが、「国語で必ず半分は取らせる！」、そうすれば得意科目の理科でリカバリーがきき、合格はできると私自身ご両親に豪語しました。

実際、このレベルの問題にはくせが強いものが多く、対策は難しいのですが、はまれば、能力を覆せる意外性も持ち合わせています。

結果、志望校対策をしっかり行ったことで、無事合格することができました。

この合格には実は裏話もあって、抑えて受けたある中学校は、合格最低点に数十点足りない不合格だったのです。普通に考えたら、武蔵合格する子が、その中学校に落ちることはあり得ないのです。

こういうこともあり、なお武蔵中との運命を感じさせてくれる子でした。

また、記述には、メンタルが重要だということも気づかせてくれたのは彼でした。記述は形のある答えがないので、「本当に合っているかな？」と不安になって書けないのです。記述が書けない子の大半がこの問題を抱えています。勇気を持って書いてみると、完璧ではないながらも、要点をおさえた答えを書いてくれるのです。書けないのは能力や技術の問題ではなく、「心」なのです。

サッカーのフォワードの選手が、シュートを打たずにパスしてしまう心理と似ているかもしれませんね。